

そのキャリア教育 は最適か？

まとめ



本特集のまとめとして、今提供しているキャリア教育が、学生・大学双方にとって最適なものか、確認するための検証項目をまとめた。変化の激しい社会に学生を送り出す最終教育機関として、その役割を果たせるか否かは、これからの日本社会の命運を左右すると言えよう。学生と自学の10年後、20年後を考えた取り組みになっているか、点検してほしい。

学生にとって

- 3年次の「就活対策」だけの「キャリア教育」になっていないか？
- 卒業後の活躍を取り組みの目的としているか？
内定や就職率がゴールになってしまっていないか？
- 21世紀型人材要件を意識した教養・専門教育、教育手法か？
- 4年間でどのようにキャリア教育をしていくかが設計され、明示されているか？
- 学生の「学修成果」(成長)を測るための指標はあるか？
- 学生が「学修歴」「学修成果」を就活時にアピールしやすいか？

大学にとって

- 就職課やキャリアセンターだけの取り組みになっていないか？
- 入口戦略・中身戦略・出口戦略が連携しているか？
- 学生が主に就職する業界や職種、地域の今後の労働市場と課題を把握し、それを見据えた取り組みをしているか？
- 企業に対して自学の教育力や学修成果の広報をしているか？
- 企業や社会での卒業生の活動状況を把握しているか？
- 大社の接続に関して、特色ある取り組みがなされているか？
- 学生募集の広報材料が「就職率●%」「○○資格合格率●%」で終わっていないか？
- 重点高校ではどのようなキャリア教育がなされ、かつ大学の就職実績の何を重要視しているかを把握しているか？
- 21世紀型人材要件を満たすための学修成果を測る指標やPDCAを回すためのしくみはあるか？